

2025年8月20日
プチ学習会（第2回）

学校現場における生成AIの利活用

～ガイドラインとその実践例～

文部科学省初等中等教育局 学校情報基盤・教材課
学校デジタル化プロジェクトチーム 学びの先端技術活用推進室

伊勢本 惇示



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

1. 生成AIの利活用に関するガイドラインについて
2. 生成AIパイロット校等における実践事例

1

生成AIの利活用に関するガイドライン について

初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver.2.0)

教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。令和5年7月に暫定的なガイドライン(Ver.1.0)を公表し、令和6年12月にガイドライン(Ver.2.0)へと改訂。

ガイドラインの構成

① はじめに（本ガイドラインの位置づけ及び構成）

① 生成 AI について

② 基本的な考え方

- 1 人間中心の生成AIの利活用
- 2 情報活用能力の育成強化

政府全体の議論
に合わせて内容や
考え方を整理



③ 学校現場において押さえておくべきポイント

- 教職員が校務で利活用する場面
- 児童生徒が学習活動で利活用する場面
- 教育委員会が押さえておくべきポイント

場面や主体に
応じて具体的な
ポイントを整理



ガイドライン参考資料

- 各場面や主体に応じたチェック項目
- 生成AIパイロット校における先行取組事例
- 学校現場で活用可能な研修教材 等

初等中等教育段階における
生成 AI の利活用に関するガイドライン

文部科学省 初等中等教育局

令和6年12月26日
Ver. 2.0

令和6年12月26日にVer.2.0公表



1. 生成AIについて

生成AI について	基本的な考え方		押さえておくべきポイント				参考 資料
	人間中心	情報活用 能力	共通	教職 員	児童 生徒	教育 委員会	

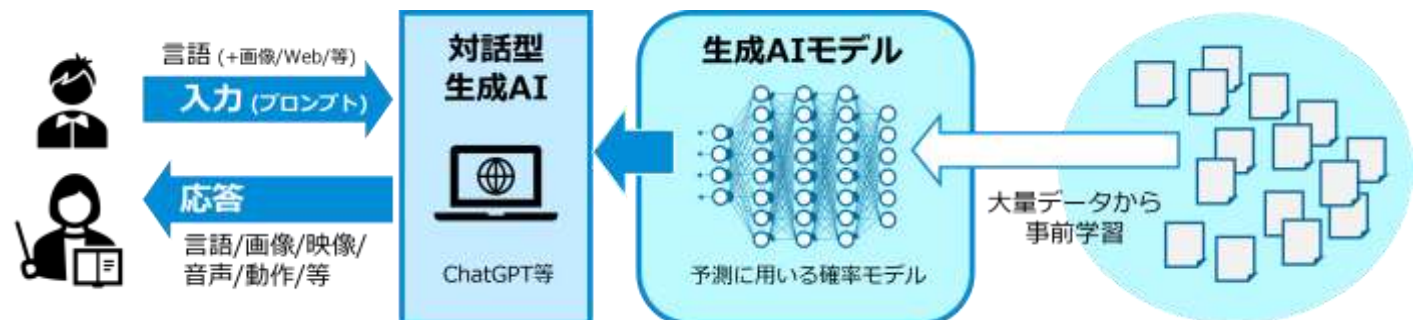


生成AIの概要



- 生成AIは急速に普及し、文章だけでなく動画像や音声等、異なる種類の情報をまとめて扱えるようになり、人間の反応と遜色ないスピードで応答ができるようになっている。
- 学校現場においても、汎用的なサービスが利用可能なだけでなく、標準仕様のブラウザや学習支援ソフトウェア等にも組み込まれ、利活用の幅が広がりつつある。
- 誤った出力（ハルシネーション）を完全に防ぐことは難しいとされているほか、学習過程・出力過程の信頼性・透明性への懸念、大量のデータに潜む偏見や差別等のバイアスをそのまま再生成することなど、様々なリスクも指摘されている。一方で、これらのリスクを軽減する技術等も進展している。

生成AIの仕組み



JST研究開発戦略センター「人工知能研究の新潮流2 ～基盤モデル・生成AIのインパクト～」(2023年7月)を基に文部科学省において作成

参考資料：留意すべき代表的なリスクや懸念の例

生成AI について	基本的な考え方		押さえておくべきポイント				参考 資料
	人間中心	情報活用 能力	共通	教職 員	児童 生徒	教育 委員会	

**AIに人格があるかのように
誤認するリスク**

**資質・能力の育成に
悪影響を与えるリスク**

**バイアスの存在と
それによる公平性の欠如**

**機密情報や
個人情報に関するリスク**

著作権に関するリスク

**外部サービスの利用に
起因するリスク**

- ※ ここで取り上げるリスクや懸念は代表的なものであって、生成 AI が有するリスクを網羅したものではない。
- ※ また、このようなリスクや懸念の存在が直ちに生成 AI の利用を妨げるものではなく、スマートフォン等が広く普及し、既に一定数の児童生徒が学校外で生成 AI に触れているとの指摘もある中においては、リスクを正しく認識した上で、学校現場において正しく向き合っていくことが重要である。

2. 基本的な考え方 – 人間中心の利活用

生成AI について	基本的な考え方		押さえておくべきポイント				参考 資料
	人間中心	情報活用 能力	共通	教職 員	児童 生徒	教育 委員会	

人間中心の原則



- 生成AIを人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具になり得るものと捉えるべきである。
- その上で、出力はあくまでも「参考の一つである」ことを認識するとともに、リスクや懸念を踏まえつつ、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要である。

児童生徒の学びと生成AI



- 学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用するべきであり、生成AIを利活用することが目的であってはならない。

教師の役割と生成AI



- 指導計画や学習環境の設定、丁寧な見取りと支援といった、学びの専門職としての教師の役割は、より重要なものになる。
- 生成AIの仕組みや特徴を理解するなど、教師には一定のAIリテラシーを身に付けることが求められる。

2. 基本的な考え方 - 情報活用能力の育成強化

生成AI について	基本的な考え方		押さえておくべきポイント				参考 資料
	人間中心	情報活用 能力	共通	教職 員	児童 生徒	教育 委員会	

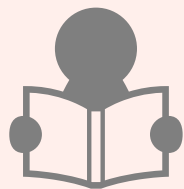


学習の基盤となる資質・能力 としての情報活用能力



- 学習指導要領では、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力として位置付け、情報を主体的に捉え、活用すること、情報技術を学習や日常生活に活用できるようにすることの重要性を強調している。
- 各学校においては、教科等横断的な視点からの教育課程の編成を通じて、各教科等の学習の過程における指導の中で情報活用能力を育成することが期待される。

情報活用能力の 育成強化



- 生成AIの仕組みの理解、学びに生かしていく視点、近い将来生成AIを使いこなすための力を、各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要である。
- 生成AIが社会生活に組み込まれていくことを念頭に、発達の段階等を踏まえつつ、情報モラルを含む情報活用能力の育成を充実させていくことが必要である。

3. 学校現場において共通して押さえておくべきポイント

生成AI について	基本的な考え方		押さえておくべきポイント				参考 資料
	人間中心	情報活用 能力	共通	教職 員	児童 生徒	教育 委員会	



3. 学校現場において押さえておくべきポイント

- 校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

教職員の校務



具体的な利活用場面

- 児童生徒の指導にかかわる業務への支援(授業準備、部活動、生徒指導 等)
ex. 授業で取り扱う教材や確認テスト問題のたたき台を作成する
- 学校の運営にかかわる業務への支援(教務管理、学校からの情報発信、校内研修 等)
ex. 各種お便り・通知文・案内文のたたき台を作成する
- 外部対応への支援
ex. 保護者会・授業参観・保護者面談の日程調整に活用する

利活用の際のポイント

- AIサービスの**最新の利用規約を確認・遵守**する
- 原則、**重要性の高い成績情報等を入力しない**
- 個人情報保護法等を遵守**すること、**著作権侵害につながるような使い方をしないこと**
- バイアス等の生成AIの特徴を理解した上で、出力された内容を**採用するかどうかは必ず教職員が判断**する
- 管理職は**適切な利活用がなされているかを確認**する

3. 学校現場において押さえておくべきポイント

児童生徒の学習活動



具体的な活用場面

- 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき
- その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要
- 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

- 情報モラル教育の一環として、生成AIが生成する誤りを含む出力を教材に、その性質や限界に気付く
- グループの考えをまとめる、アイデアを出す活動の途中段階で、一定の議論やまとめをした上で、足りない視点を見つけ議論を深める目的で活用する
- 英会話の相手として活用したり、より自然な英語表現への改善や一人一人の興味関心に応じた単語リストや例文リストの作成に活用したりする
- プログラミングの授業において、児童生徒のアイデアを実現するためのプログラムの制作に活用する 等

利活用の際のポイント

- 年齢制限等の**最新の利用規約を確認・遵守**し、**教師の適切な指導監督の下で利活用**させることが必要
- **教育情報セキュリティポリシーや教育情報セキュリティ管理者の指示等を遵守**することが必要
- 氏名や写真等の**個人情報を入力させないこと**、**著作権侵害につながるような使い方をさせないこと**
- **出力に偏りがないか**など、教育目的に照らして適切かを**教師が随時判断**することが必要
- **保護者**に対し、**利用目的や様態等の情報提供**が重要

3. 学校現場において押さえておくべきポイント

教育委員会等



適切な利活用のために考慮すべきポイント

- 教育委員会が主導して制度設計や利活用の方向性を示すことが重要
- 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じることが必要であり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない
- 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、効果的な活用を促進する研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要

- 各学校が適切に生成AIの利活用を行えるよう**各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じる**ことが必要
- 教育現場の実態に即した**教育情報セキュリティポリシーを教育委員会が策定、必要に応じて見直す**ことが重要
- 個人情報**の取扱いに関して**必要かつ適切な措置**が取られているか確認すること。著作権の侵害リスクを低減するため、**適切な予防措置を講じているモデルやサービスを選択**することも考えられる
- バイアス等のリスクや懸念を踏まえた教職員による最終的な判断が不可欠であることなど、**適切な情報提供や研修等のサポートを行うことができるよう、体制の整備や知見の収集に努める**ことが重要
- 生成AIサービスを導入する際は、保護者の**経済的な負担等に十分に配慮しつつ**、適切な利活用を実現するための研修を実施するなど、**丁寧な情報提供**を行うことが必要

利活用する際のチェック項目

教職員の校務

- 教育委員会の方針（情報セキュリティに関するルール・指示等も含む）に基づき利用しているか
- 業務端末又は教育情報セキュリティ管理者の許可を得た端末を利用しているか
- 生成AIサービスの提供者が定める最新の利用規約を確認・遵守しているか
- ハルシネーションやバイアス等の生成AIの特徴を理解した上で、出力結果の適切性を判断できる範囲内で利用し、出力された内容を採用するかどうかを自身で判断しているか
- プロンプトに重要性の高い成績情報等の情報を入力していないか
※重要性の高い情報を扱う前提のセキュリティ対策が講じられている場合は除く（ただし、重要性の高い情報のうち個人情報に該当する情報については、以下「プロンプトに個人情報を入力していないか」についても留意する必要がある。）
- プロンプトに個人情報を入力していないか
※教職員がプロンプトに入力した個人情報を、生成AIの提供者において応答結果の出力以外の目的で取り扱わないことを確認している場合は除く
- 著作権の侵害につながるような使い方をしていないか

児童生徒の学習活動

- 教育活動の目的を達成する観点で効果的であることを確認しているか
- 児童生徒の発達の段階や情報活用能力の育成状況に十分留意しているか
- 生成AIの性質やメリット・デメリット、情報の真偽を確かめる、自己の判断や考えが重要であることを十分に認識できるような使い方等に関する学習を実施しているか
- プロンプトに氏名や写真等の個人情報を入力しないよう十分な指導を行っているか
- 著作権の侵害につながるような使い方をしないよう十分に指導しているか
- 生成AIサービスの提供者が定める最新の利用規約を確認・遵守しているか（年齢制限や保護者の同意の必要性、生成物のライセンスの所在など）
- 生成AIによる生成物をそのまま自己の成果物として使用することは自分のためにならないこと、使用方法によっては不適切又は不正な行為になることを十分に指導しているか。
- 学習課題に生成AIの回答を引用している場合、出典・引用を記載することを理解させているか
- 保護者の経済的負担に十分に配慮して生成AIツールを選択しているか
- 児童生徒が学校外で生成AIを利活用する可能性も踏まえ、生成AIの不適切な利活用が行われないよう、保護者に対し周知し、理解を得ているか

生成AIパイロット校における先行取組事例



「教職員による校務での利活用例」や「学習場面において利活用が考えられる例」に即した生成AIパイロット校の先行取組事例を掲載している。

学校現場で活用可能な研修教材等



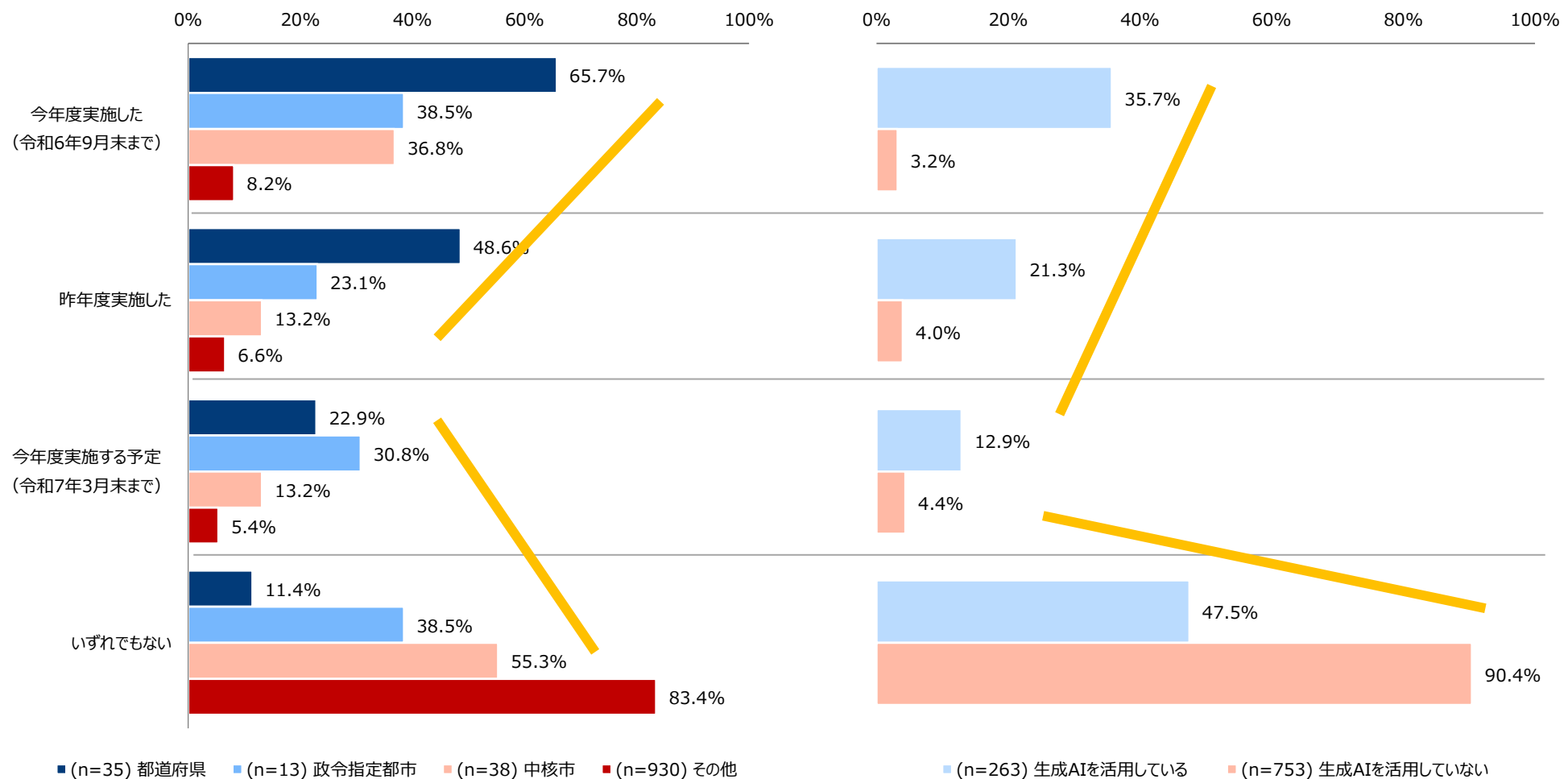
文部科学省等が実施してきた研修（アーカイブ公開含む）や利用可能なコンテンツ等の例を掲載している。

2

生成AIの利活用に関する実践例

生成AIに関する研修の実施状況

- 令和6年度時点で、**大きな自治体ほど生成AIの利活用に関する研修を実施**している。小規模自治体や生成AIを活用していない自治体は研修を実施していない傾向。



出典：文部科学省委託事業「令和6年度 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進（実証事例を踏まえた先端技術の活用方法・諸外国の先端技術の動向に関する調査研究）」

文部科学省が実施してきた研修等の取組

教員向けの研修動画シリーズは **MEXT Channel (Youtube)** で公開中。**9月以降も実施予定。**

生成AIに関する教員向け研修動画シリーズ・研修会（令和5年9月）

生成AIの利用に関する
オンライン研修会

教育での生成AIの利用について、「初等中等教育段階における生成AIの
利用に関する暫定的ガイドライン」(文部科学省 令和5年7月4日)を踏まえ、
その方向性や活用事例等をシリーズで解説します。

開催日時	講師
令和5年 9月1日(金) 14:00 ~ 15:00	吉田 壘
令和5年 9月5日(火) 13:00 ~ 14:00	田中 善将
令和5年 9月8日(金) 15:30 ~ 16:30	佐藤 和紀
令和5年 9月22日(金) 10:00 ~ 11:00	佐藤 昌宏
令和5年 9月29日(金) 10:00 ~ 11:00	池田 修

対象者：学校関係者（一般参加も可）
参加費：無料（事前申込要）



動画サイトへの
リンクはこちら



令和7年度基礎研修シリーズ（令和7年度6-7月）

生成AIに関する Generative AI
教員向け研修動画シリーズ

令和7年度
研修基礎シリーズ
第1回～第3回

生成AIに対して学校現場でどう向き合えばよいのか。
基礎がわかる全3回のオンライン研修シリーズで、
活用の考え方、校務DXに向けた利活用等を丁寧に解説します。

回次	開催日時	講師
第1回	6月25日(水) 15:30 ~ 16:30	生成AIの基礎と教育における活用可能性 東京大学 大学院工学系研究科 准教授 吉田 壘 氏
第2回	7月4日(金) 15:30 ~ 16:30	生成AIを活用するための情報活用能力の基礎 信州大学教育学部 准教授 佐藤 和紀 氏
第3回	7月8日(火) 15:30 ~ 16:30	校務DXに向けた利活用 つくば市立みどりの学園義務教育学校 教員 中村 めぐみ 氏

参加費：無料（事前申込要）
事前申込：https://x.gd/ZP1vk
学校現場における生成AIの利活用に関する調査研究事業事務局 Email: ai_info@nttlis.co.jp
文部科学省



リンクはこちら





文部科学省委託「GIGAスクールにおける学びの充実」 情報モラル教育推進事業 -令和6年度 啓発コンテンツ全体概要-



■ 概要

学校や家庭内における情報モラルに関する指導の一層の充実を図るため、4本のアニメ動画教材を作成しました。フェイクニュースやAIによるディープフェイクも出現している中で、子供たちがこれらを信じ、扇動され、誤った行動を起こしてしまわないよう、**生成AIの仕組みを踏まえたうえで、「ファクトチェック」「個人情報・プライバシー」「著作権」「情報発信」**に関する内容について、対象年齢別に作成しています。授業中の指導、予習・復習、家庭学習等、様々な場面においては是非ご活用ください。

教材⑳ 全部正しい？ 生成AIって



■ 対象 小学生

■ 教材のねらい

生成AIの仕組み（どのように情報が出力されるのか）を題材として取り上げ、**情報には誤ったものもある**ことを理解させ、情報の正確さを判断する**ファクトチェックの大切さ**について考えさせる内容となっています。

教材㉑ うっかり入力？ 個人情報を守るとは ～生成AI編～



■ 対象 中学生～高校生

■ 教材のねらい

生成AIが**個人情報を学習**するという仕組みを題材として取り上げ、**生成AIに個人情報やプライバシーに関する情報を入力するリスク**について理解させ、**自分で考えながら活用する大切さ**を考えさせる内容となっています。

教材㉒ あなたが作るもの「著作権侵害」してない？ ～生成AI編～

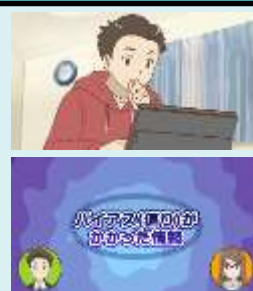


■ 対象 中学生～高校生

■ 教材のねらい

生成AIを活用した**イラスト作成**を題材とし、**生成AIの作成した回答には、他者の権利を侵害する情報もある**という性質を踏まえ、**自分で考えながら活用する大切さ**を考えさせる内容となっています。

教材㉓ 1つの情報で大丈夫？ 自分で考える情報選びとは ～生成AI編～



■ 対象 中学生～高校生

■ 教材のねらい

生成AIを活用した**調べ学習**を題材として取り上げ、**生成AIが作成した情報を、そのまま自己の成果物として応募・提出するリスク**について理解させ、**自分で考えながら活用する大切さ**を考えさせる内容となっています。

■ 本教材の構成と活用のポイント（各作品 約4分） ※各教材の構成内容は同じとなります。

① トラブル発生

主人公が生成AIを活用する日常シーンを追体験し、「あれ？と思うような生成AIの使い方」がないか、児童生徒に考えさせます。

② 生成AIの 上手な活用

生成AIの仕組みを解説するとともに、生成AIを上手に活用するためのポイントを解説します。主人公の様子を通して、具体的な生成AIの上手な活用方法を理解させます。

活用のポイント

- 生成AIの仕組みを踏まえつつ、上手に活用するためにはどうすれば良いか、自分ごととして考えさせます。
- 具体的にどのように気を付ければ良いか、解説を通じて学ばせるとともに、友人や家族と話し合うことで自身の考えを深めさせることが重要です。

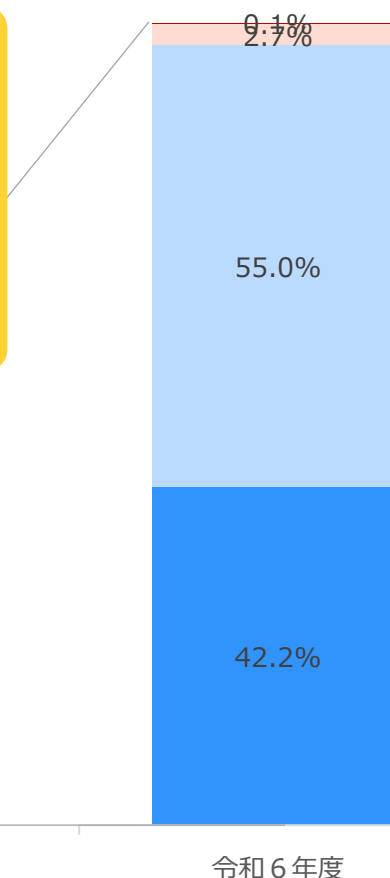
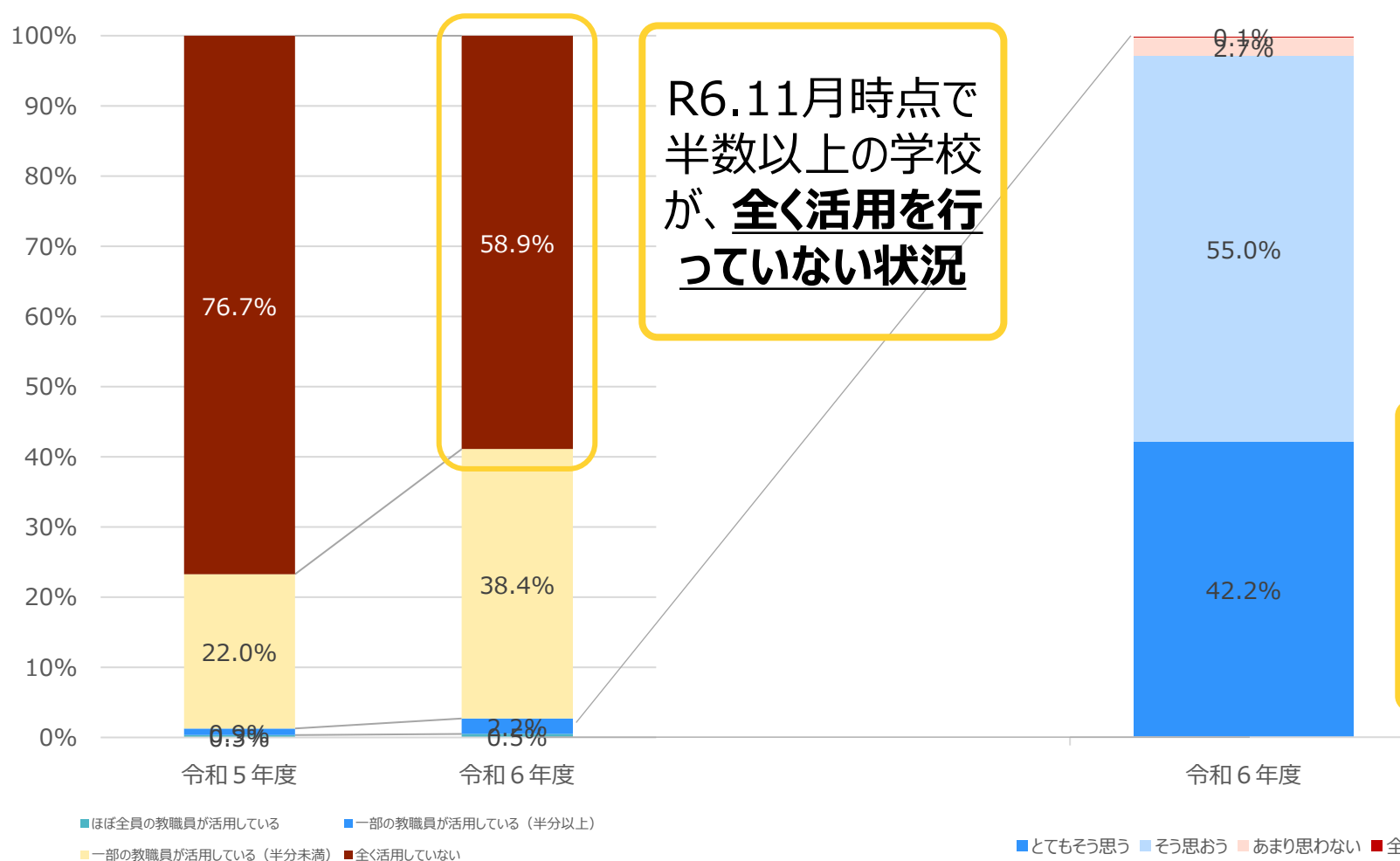
校務における生成AIの利活用の状況

- 教職員の校務における生成AIの利活用は広がりつつあるものの取組は道半ば。生成AIを活用した学校で、働き方の改善に効果があったと思う学校が **97%** と非常に高い割合。

GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト～学校・学校設置者の自己点検結果～[確定値]（令和7年3月26日 文部科学省初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチーム）

「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成AIを校務で活用していますか。（n=26014）

校務DXに取り組んだことで教職員の働き方の改善に効果があったと思うか（n=671）



教職員の半数以上が活用した学校のうち97%が働き方の改善に効果があったと実感

生成AIパイロット校における校務での利活用の事例（令和6年度）

ガイドラインで例示している、① 児童生徒の指導に関わる業務の支援（授業準備・部活動・生徒指導等）、② 学校の運営に関わる業務の支援（教務管理・学校からの情報発信・校内研修等）、③ 外部対応への支援 等への活用例が全国の生成AIパイロット校から生まれているところ。

全国の生成AIパイロット校における取組状況（校務利用）

新潟県立国際情報高等学校 ①

生徒向けにディベートの雰囲気伝えることを目的に、探究活動のためのディベートのシナリオを生成AIを活用して作成。

かすみがうら市霞ヶ浦南小学校 ③

生成AIを活用し、学校HPの記事作成の負担を軽減。生成AI活用以前より1か月あたりの記事数が2.3倍に増加し、学校の発信を強化。

奈良市つぎか鼓阪小学校 等 ①

外国にルーツを持った子供が多く在籍しているなか、生成AIとその他の翻訳ツールを使い分けながら、学級通信や学校だよりを翻訳。

八丈町立富士中学校 ②

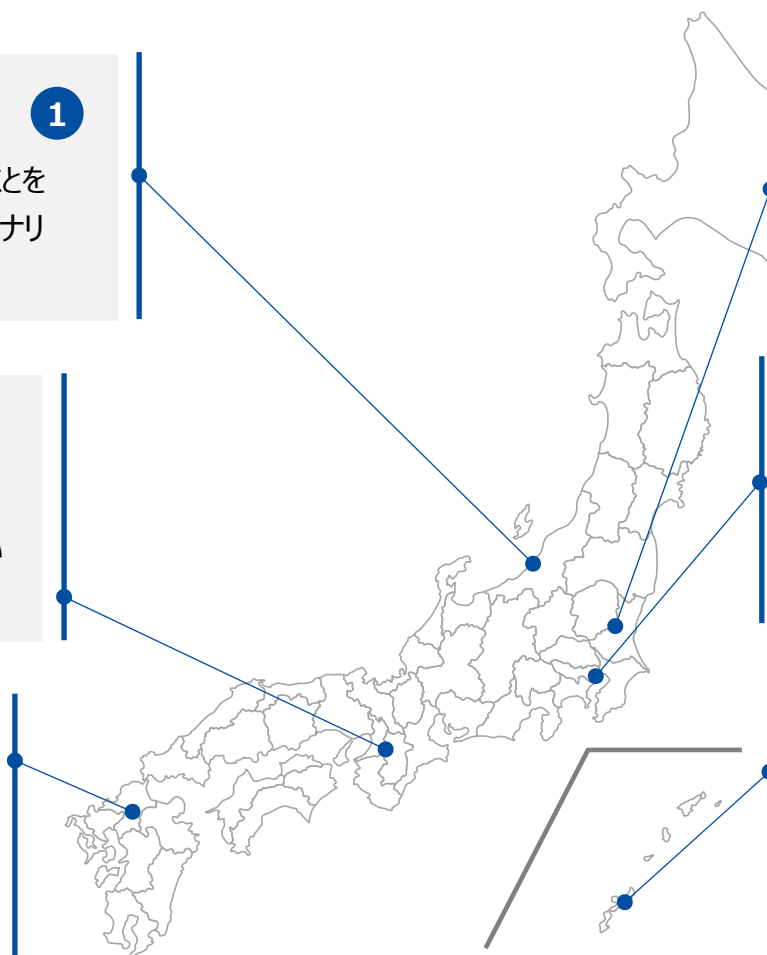
各学年の授業科目や教員の担当状況、教室の利用状況などの制約条件を考慮して、3学年2クラス分の週次時間割を生成AIを用いて作成。

苅田町立新津中学校 ①

学習指導要領・解説や指導と評価の一体化のための参考資料を参考にしたコメント生成を通じて授業指導案をブラッシュアップ。

沖縄市立諸見小学校 ①

毎時間のミニテスト作りを自動化し、日常業務に費やす時間を削減。生成AIの活用により、選択問題や記述問題などの多様な問題形式を出力。



学習場面での生成AIの利活用の事例（令和5年度）

小学校

AIの正しい知識を身に付ける（情報モラル教育）



大阪市立高殿小学校

実施概要

AIについての基本知識を確認。生成AIを利用して作成した記事と実際の記事を比較。今後どのようにAIを活用したいか、考えをまとめる。

児童の反応

「インターネット上の情報をすぐに信じるのではなく、様々な資料と照らし合わせたり自分の経験をもとに考えることが大切だと感じました。」

中学校

憧れの人物を英語で紹介（3年次・英語科）



宮城県岩沼市立
岩沼北中学校

実施概要

作成した英作文を生成AIに直接入力したり、音声入力したりして、訂正が必要な部分やより自然な英語表現を提案してもらう。

生徒の様子

生成AIとやり取りしたことで、より正確な英文を作り周囲に紹介できていた。音声入力することで、自分の発音の正しさも確認できていた。

中学校

話し合いで問題を検討する（2年次・国語科）



茨城県つくば市立
学園の森義務教育学校

実施概要

グループごとに設定した問題について話し合う活動。新たな視点や自分たちの意見に対するアドバイスを生成AIからもらい、検討を深める。

生徒の様子

生成AIからのアドバイスも、グループで話し合った内容に加えた上で再検討して、最終的な結論を出していた。

高等学校

デスクトップアプリの作成（1年次・情報科）



茨城県立
竜ヶ崎第一高等学校

実施概要

Pythonを用いたアプリの作成時にAIを活用してコードを作成。プロンプトを工夫しながら、目的に見合うコードを組み込みアプリを完成させる。

生徒の反応

「自分では書けないPythonのプログラムを書いてもらえ、それを見て勉強することもできてよかった。」
「例をすぐに出してくれて、理解しやすかった。」

学習場面での生成AIの利活用の先行取組事例（令和6年度）

動画撮影等と組み合わせたマルチモーダルな取組や総合・高校情報等における生成AIの利活用方法が多様化。

中学校

動画から課題を把握しAIと対話（2年次・体育）



神奈川県相模原市立
中野中学校

実施概要

バスケットボールの練習風景の動画を見ながら、課題を見つけ議論を行うだけでなく、生成AIにアドバイスをもらいながら、理解を深めた。

生徒の様子

全体の動きを把握できるよう動画を撮る位置を工夫する姿が見られたとともに、AIとの対話も通じて、練習を行いながら試行錯誤する姿が見られた。

中学校

修学旅行の自主活動の行程を考える（2年次・総合）



熊本県熊本市立
桜山中学校

実施概要

修学旅行の活動内容を計画する課題解決学習において、各個人の興味関心を基に生成AIも活用しながら班での訪問場所やルートを決定。

生徒の様子

生徒が持っている旅行先の情報が少ない状況で、AIに繰り返し聞いたり、Webページの情報を収集したりしながら、時間の短縮にもつながった。

高等学校

データベースの構築（情報科）



大分県立
情報科学高等学校

実施概要

データベースのSQLを扱う実習において、作成する構文やエラーの解読に活用。40人一斉の実習で、生成AIが各生徒にアドバイスを提供。

生徒の様子

すぐに生成AIに聞くのではなく自分自身の回答を作成してから、自らの答えを検証する場面での活用が見られた。

高等学校

生成AIを活用したシステムの設計（情報Ⅱ）



山形県立
酒田光陵高等学校

実施概要

JavaScriptでゲームの開発を行う授業。実際のゲームの動作を考え、生成AIに繰り返し指示し、何が不足するのかを考えながら理想を目指す。

生徒の反応

生成AIに日本語で指示を行うことで要件定義の思考に集中することができた。微調整が生成AIではできず、コードを学ぶ意欲にもつながった。

学習場面での生成AIの利活用の先行取組事例（令和6年度）

中学校

英語の発表原稿の評価・改善（苅田町立新津中学校・2年次・英語科）

実施概要

修学旅行の思い出について、ALTの先生に発表する授業。グループ内で、複数の方法で改善案を検討し、修正して発表することができることをめあてとし、スピーチ原稿案を生成AIからの評価・改善点を参考にしながら修正。

実践したプロンプト

あなたは中学2年生の英語教師です。下の評価規準を元に生徒が書いた英文「ALTに修学旅行の思い出を紹介しよう」を優しい口調で評価して下さい。評価の観点：

- 内容：旅行先で体験した具体的なエピソードや、印象に残った出来事が記述されているか。
- 構成：時系列やトピックに基づいた、分かりやすい構成になっているか。
- 語彙・文法：正しい語彙・文法が使われているか。多様な表現が使われているか。
- 感情表現：自分の感想や感情が表現されているか。
- 必須文法：現在完了形を用いた英文が1つ以上入っているかコメントの指示：
- 良い点：具体的な箇所を挙げて褒める。（例："○○という表現が良いですね！"）
- 改善点：具体的な箇所を挙げて、改善点を指摘する。（例："○○の部分は、○○とすると、より自然な英語になります。"）
- 質問：生徒がさらに考えを深められるような質問をする。（例："○○について、もう少し詳しく教えてください。"）

中学校

ふりかえりフィードバック「ふり返りくん」の作成（嘉手納町立嘉手納中学校・社会科の例）

実施概要

生徒は授業後に自分の記述を入力し、生成AIからフィードバックを受ける形式。各教科に特化した、見方・考え方を教科会で検討し、プロンプトに反映。生成AIが記述内容をほめたり、具体的なアドバイスを提供。

成果・課題

具体的なアドバイス等を受けることで学習意欲が向上した。国語の授業では学級単位で文字数が大幅に増加。1時間の授業のそう振り返り時数が18330文字を超える事例も。

実践したプロンプト

- [] 中学社会の「ふり返り」の記述を分析してフィードバックします
- [] 前段は、学習した事実（情報）が記述されているか
- [] 後段は、学習した事実（情報）に対しての自分の意見、考えが記述されているか
- [] 社会の見方は、「多面的」・どのような場所にあるのか ・どのように広がっているか
- [] 社会の見方は、「かわり」・どのようなつながりがあるか ・どのような工夫があるか ・どのように協力しているのか
- [] 社会の見方は、「時間」・いつごろ始まったのか ・どのように変わってきたのか
- [] 社会の考え方は、「比べる」・ちがいがあるか比べている
- [] 社会の考え方は、「分類する」 ・いくつかの種類に分類している
- [] 社会の考え方は、「総合、関連付ける」 ・学習したことを総合する ・学習したことを関連付ける
- [] フィードバックについては、優しく具体例を挙げて解説して下さい。①学んだ内容について、②自分の考え、③改善点（よりよくするためのアドバイス）について伝えて下さい。見出しをつけて示してくれるとわかりやすいと思います。
- [] 中学校学習指導要領解説 社会編も加味してフィードバックして下さい。
- [] 学習者は14歳以上で、保護者の利用許可も取れています。

以下、対象記述データ



文部科学省